

横浜市民ギャラリー

あざみ野

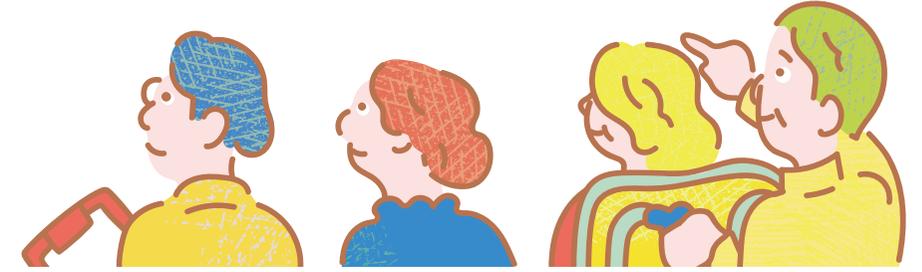
アート+認知症  
やさしい美術鑑賞  
プログラム

アート+認知症 やさしい美術鑑賞プログラム

2022.4→2025.3 報告書

## プログラムの目的と概要

「アート+認知症 やさしい美術鑑賞プログラム」は、①やさしい美術鑑賞会、②サポーター養成研修、③専門家による講座、の3つを軸に構成しています。これらのプログラムを行なうことによって、高齢者や認知症について知り、学び合う機会をつくり、年齢や病気に関わらずあらゆる方々に「作品鑑賞を楽しむ」という選択肢を提供することを目的としています。



### ①やさしい美術鑑賞会

高齢者・認知症の方とご家族や介護者が安心して過ごすことができる美術鑑賞会。福祉施設と連携しながら、横浜市民ギャラリーあざみ野を会場に実施。

### ②サポーター養成研修

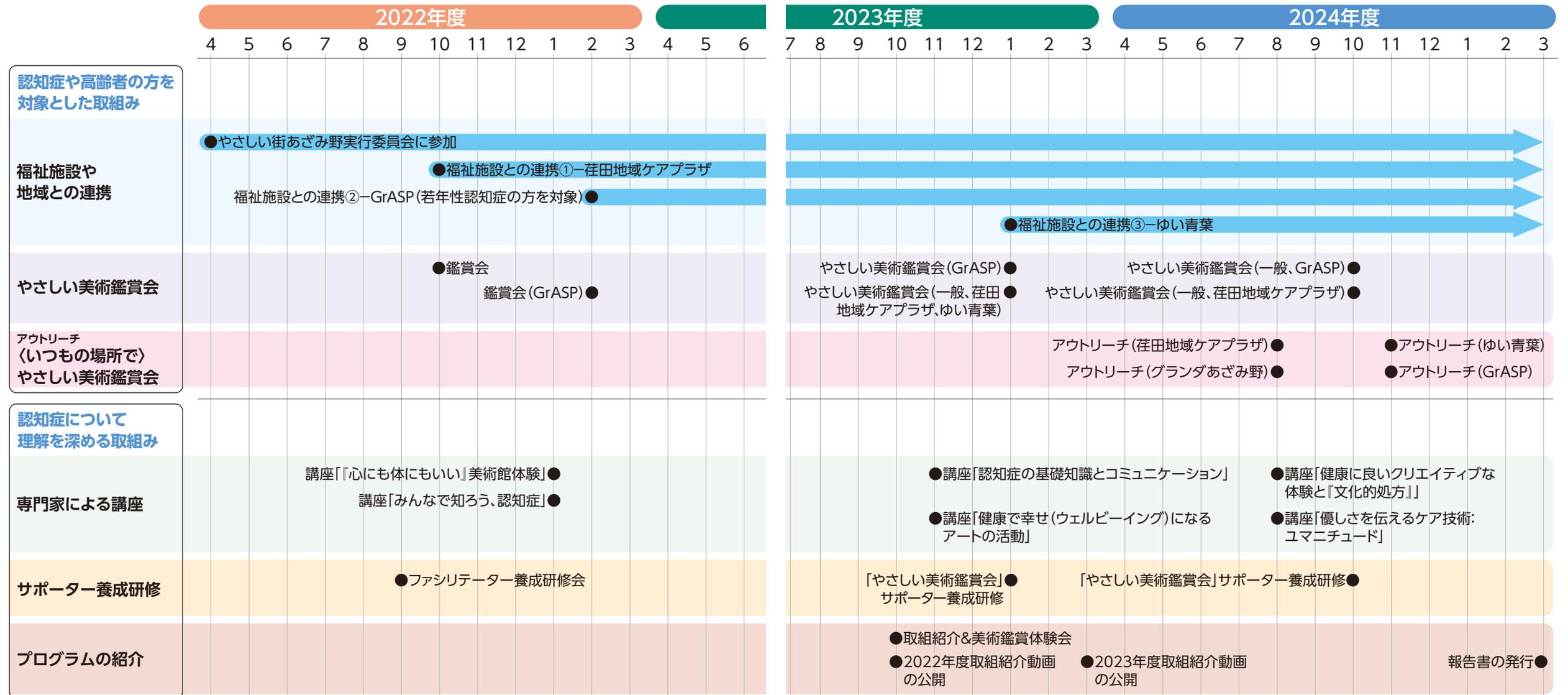
①の「やさしい美術鑑賞会」でファシリテーターやサポーターを担っていただくために、基礎的な対話型鑑賞の理論や、認知症の方と鑑賞する際のポイントについて学ぶ研修。

### ③専門家による講座

医療・福祉・美術の専門家を招き、高齢者や認知症について理解を深めたり、アートと認知症の関係を知るための講座。

### その他 年度ごとの取り組み

- 2023年度  
取組紹介&美術鑑賞体験会、取組紹介動画の公開
- 2024年度  
アウトリーチ、報告書の発行



# やさしい美術鑑賞会



日時 | 2024年1月17日(水) 10:30~12:00  
 対象 | 高齢者・認知症の方、  
 そのご家族や介護者  
 (一般募集、GrASP aoba横浜北部利用者)  
 参加者 | 認知症軽度の方11名、認知症中～  
 重度の方6名、ご家族2名  
 GrASPスタッフ7名  
 ファシリテーター及びサポーター14名  
 (サポーター養成研修参加者)

日時 | 2024年1月19日(金) 13:30~15:00  
 対象 | 高齢者・認知症の方、  
 そのご家族や介護者  
 (一般募集、横浜市荏田地域ケアプラザ、ゆい青葉)  
 参加者 | 17名(うち一般申込1組2名)  
 横浜市荏田地域ケアプラザ、  
 ゆい青葉スタッフ5名  
 ファシリテーター及びサポーター14名  
 (サポーター養成研修参加者)

場所 | 横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ、展示室  
 共催 | 1/17 GrASP株式会社、  
 1/19 横浜市荏田地域ケアプラザ  
 進行 | 北川裕介

## さまざまなジャンルの作品を鑑賞できるギャラリーの強み

2022年度と同じ内容に加えて、施設の建物そのものを楽しめるよう、散歩の時間を充実させました。今回は自主企画展が実施されていない時期でしたが、貸しギャラリーでは子どもたちが描いた作品が展示されており、微笑ましい雰囲気の中で鑑賞を楽しみました。また、アトリエでは長谷川繁の油彩画（ポスター印刷による複製）や当館所蔵のカメラを鑑賞し、さまざまなジャンルの作品・資料に触れる機会になりました。

## 1/17タイムスケジュール ※1/19もほぼ同内容

10:30	開始、アイスブレイク
10:50	館内散歩 アトリエで作品・資料鑑賞 ●《楽奇異虎羅無武流麗ちゃん》長谷川繁 ●当館所蔵の二眼レフ・一眼レフカメラ
11:35	お茶タイム
12:00	終了、スタッフ振り返り

## Topics

### 鑑賞した展覧会

『フェローアートギャラリー vol.51 牧島美帆展』  
 『第66回「明日への手」美術展 神奈川展』(主催:  
 芸術による教育の会)



「牧島美帆展」会場風景

## 2024年度のプログラム

### ・専門家による講座

「健康に良いクリエイティブな体験と『文化的処方』」  
 「優しさを伝えるケア技術：ユマニチュード」

### ・やさしい美術鑑賞会

### ・「やさしい美術鑑賞会」サポーター養成研修

### ・アウトリーチ〈いつもの場所で〉やさしい美術鑑賞会

こういう機会があるから外に出れるし、  
 これがすごく楽しみでいい時間で、  
 2人にとってデートなんだ





## ゆい青葉(荏田)

日 時 | 2024年11月15日(金)  
 対象者 | 小規模多機能施設及びグループホーム利用者  
 ファシリテーター | 北川裕介  
 参加者 | 16名  
 ゆい青葉スタッフ3名  
 横浜市民ギャラリーあざみ野スタッフ3名

## タイムスケジュール

13:10	施設担当者との打ち合わせ、会場準備
13:30	開始、あいさつ 対象:小規模多機能施設の利用者
13:35	作品鑑賞(3点) 《婦女愛禽図》山村耕花 《カトレアと二羽のインコ》高間惣七 《鳥》イワナ・ショルツォヴァ
14:00	土粘土で鳥のかたちをつくる それぞれが思い浮かべる鳥のかたちをつくり、みんなで鑑賞
14:30	終了
14:45 15:45	グループホーム利用者を対象に同内容のプログラムを実施
15:45	終了。ギャラリーに戻り、スタッフ振り返り

### 鳥をテーマにした鑑賞と創作

鳥をモチーフとした作品を3点鑑賞した後、土粘土を使って鳥の形をつくるワークを行いました。鑑賞だけでなく創作の時間を設けることで、粘土に触れる心地よさを感じてもらい、飽きずに最後まで楽しんでいただけたよう工夫しました。同じ施設内で、通いの方と入居されている方を対象に、それぞれ鑑賞会を実施しました。

## Topics

### ゆい青葉

小規模多機能型居宅介護(訪問・通所・宿泊)と認知症対応型共同生活介護(グループホーム)を併設した施設。家庭的な環境や住み慣れた地域の中で、利用者が自立した生活を送ることができるようサポートしている。

### 鑑賞した作品

《婦女愛禽図》山村耕花  
 横浜美術館蔵  
 (山村行輝氏寄贈)

二曲一双の屏風に複数の女性が描かれた作品。よく見ると女性がさまざまな鳥を愛でている場面であることがわかる。描かれた人物や鳥の数を数えたり、鳥の種類を観察するなかで、参加者が昔飼っていた鳥のことや、施設の周囲で見られる鳥の話などに話題が広がっていった。



## GrASP aoba横浜北部

日 時 | 2024年11月20日(水)  
 対象者 | GrASP aoba横浜北部利用者  
 ファシリテーター | 北川裕介  
 参加者 | 15名  
 GrASPスタッフ5名  
 横浜市民ギャラリーあざみ野スタッフ4名

## タイムスケジュール

10:15	施設担当者との打ち合わせ、会場準備
10:30	開始、あいさつ
10:35	作品鑑賞(3点) 《婦女愛禽図》山村耕花 《カトレアと二羽のインコ》高間惣七 《鳥》イワナ・ショルツォヴァ
11:00	土粘土で鳥のかたちをつくる それぞれが思い浮かべる鳥のかたちをつくり、みんなで鑑賞
11:30	終了。ギャラリーに戻り、スタッフ振り返り

### 認知症の進行度が異なる方々が一緒に楽しむことができる時間

「やさしい美術鑑賞会」に参加したことのある方が多く、ギャラリーで鑑賞している時よりも落ち着いた雰囲気を感じました。土粘土のやさしさや冷たさを楽しみながら、集中して取り組まれている様子が多くの方に見られました。認知症の進行度が異なる人同士が一緒になって、鑑賞と創作を楽しみました。

## Topics

### GrASP aoba横浜北部

若年性認知症の支援に特化した青葉区の介護サービス事業所。認知症容態初期から後期まで一貫してサービスを提供。特に初期には、利用者が就労ボランティアを通じて社会貢献し、やりがいや達成感を得られるよう取り組んでいる。

### 鑑賞した作品

1《カトレアと二羽のインコ》高間惣七  
 2《鳥》イワナ・ショルツォヴァ  
 いずれも横浜美術館蔵  
 ※1は高間米太郎氏寄贈

2作品とも良く見ると鳥だとわかる抽象的な表現。止まり木でくつろぐ様子や、今にも羽ばたこうとしている姿など、形に注目しながら鑑賞を行った。粘土制作の発想を広げることを意識して、鑑賞作品を選んだ。



## 連携施設スタッフの声

### 横浜市荏田地域ケアプラザ 和久井聡子(社会福祉士)

この取り組みは、横浜市民ギャラリーあざみ野様より、お声をいただき、2022年度から協力して実施しています。私たち荏田地域ケアプラザは、地域の身近な相談窓口として、福祉や介護等の相談を受けている施設です。高齢や認知症等により、外出の機会が減ってしまっているという現状がある中、ご本人にとっての新たな社会交流の場や刺激となる取り組みと考え、賛同致しました。

普段とは違うアートギャラリーという空間の中で、少しおしゃれをして、出かけられ、アートを通じて、いろいろな人と話す機会となり、素敵につながりの場となりました。参加者からは、「普段とは違う場所で楽しんで様子だった」「いつも家族とばかりだが、たくさんの方々と接し、いきいきしていた」という家族の声、「将来が広がったように感じ、楽しかった」とのご本人の声等いただきました。2年目には、近隣の施設グループホームにも声をかけ、参加いただき、この地域での輪も広がりました。

横浜市では、認知症の人が安心して自分らしく暮らせる地域をめざす「チームオレンジ」が始まっています。私たち荏田地域ケアプラザも活動を開始し、2024年は、そのメンバーである地域住民の皆さまと共に参加させていただき、「アート+認知症」の取り組みへの理解も広がりました。これからも高齢や障害、認知症等になっても、普段の暮らしの中で、誰もが気軽に出かけられる場や支援の輪を広げていきたいと考えております。

### GrASP株式会社 定政香織(作業療法士)

認知症を患うメンバー(通所利用者)に、美術鑑賞はどのような影響を与えるのか。当初、環境変化に敏感で混乱しやすいメンバーがいるため、参加することに不安がありましたが、結果は非常にポジティブなものでした。

普段閉じこもりがちなメンバーが感嘆の声を上げ、環境変化に適応が難しいメンバーも笑顔で現地職員の皆さんと接するなど、非言語的コミュニケーションが活発となっています。また、「絵が嫌い」というメンバーも参加を促した結果、予想以上に積極的な交流や笑顔が見られました。普段の日常生活では難しいと感じることも、美術鑑賞会を通じて残存能力を発揮し、前向きな行動につながる結果となりました。

鑑賞会に参加したご家族からは、社会性や興味関心がまだ残っていることや気分転換になったことが評価され、介護者にとっても休息の機会となるなど、お互いの心身機能面での活性化につながっています。

若年性認知症を患う方の活躍の場が少ない中、適切な支援があれば人との関わりを持ち、共に活動できることを実感しています。美術鑑賞会は、「認知症は高齢者だけが罹患するものではない」「認知症だから何もできない」という偏見を払拭する啓発にも繋がったのではないかと思います。

日常生活において困りごとがあっても、必要な支援を受けながら今まで通りの生活を続けられる社会が必要だと感じています。今回の経験を活かし、引き続き若年性認知症を患う方々の人生に寄り添っていきたく思います。この度は貴重な機会をありがとうございました。

## 広報と参加者募集について

広報活動は、チラシの配布、ウェブページの作成、SNSでの発信を中心に行いました。2024年度は、アート+認知症のプログラム情報(募集を行わないアウトリーチを除く)を1枚のチラシにまとめることで、事業全体が立体的に見えるよう工夫しました。

しかし、認知症の方に直接情報を届けるのは難しく、近隣の福祉施設との連携が不可欠です。福祉施設が発行している広報物に情報を掲載してもらったり、利用者や関心のありそうな他の施設へ直接声をかけてもらうことで、認知症の方に情報を届けることができています。

また、横浜市芸術文化振興財団(P.09のTopics参照)の職員が鑑賞会のファシリテーターを行うため、このプログラムは職員研修の一環としての役割も担っています。施設の種類や役職を問わず、当財団から多様な職員が参加している点も特徴です。

### ■広報物一覧



2022年度チラシ

2023年度チラシ

2024年度チラシ

デザイン:伊藤浩平

### ■取組紹介動画



2022年度

2023年度

### Topics

#### 「認知症」の方を対象とすることの難しさ

本事業は、「アート+認知症」という名称を用いることで、どのような取り組みであるかを端的に伝えている。鑑賞会の対象者は高齢者や認知症の方、そのご家族や介護者としているが、特に初めての参加者にとっては、「自分がこのプログラムに参加しても良いのか」が分かりにくい場合があり、対象設定の難しさを感じる場面があった。また、高齢者の中には「認知症」という単語に敏感な方もいるため、鑑賞会当日は可能な限り「認知症」という言葉を使わないよう配慮している。代わりに、「認知症の方も一緒に楽しめる内容であること」や「脳のトレーニングとしても有効であること」を冒頭で伝えることで、私は認知症なんだと意識が向かないように心がけている。